



翠清会梶川病院

翠清会ニュース

医療法人
翠清会



日本医療機能
評価機構認定施設

2022
No.229

職員撮影 風景／世羅高原農場

今号の内容

- 脳卒中相談窓口について
- 新人挨拶
- 高血圧について
- 学術活動（4月～9月）
- 第11回 翠清会梶川病院主催 オンライン公開講演会での講演内容のご紹介

当院ではWiFi無料インターネット接続サービスがご利用いただけます。ご希望の方は受付までお問い合わせください。

脳卒中相談窓口について

脳神経外科部長 岡田朋章

2021年3月に発表された「脳卒中と循環器病克服第二次5ヵ年計画」に基づく整備のひとつが「脳卒中相談窓口」です。2022年度中に一次脳卒中センターのコア施設に設置されることが決まっています。当院でも設置準備を進め、10月初頭より開設する運びとなりました。どのような「窓口」であるのか、簡単ではありますがご紹介致します。

脳卒中を発症すると、急に「手足が思い通りに動かない」「これまでのように判断がうまくできない」「言葉がうまく話せない」など、身体機能や言語機能などが障害されます。発症後、可能な限り早期に治療する

ことで、機能の回復が期待できますが、障害が残ることもあります。その結果、患者さんの日常生活には、大きな支障をきたす場合が少なくありません。退院後の生活場所は、患者さんによって様々ですが、生活環境を整えることが重要になります。具体的には、ご自宅に手すりを付けたり、デイサービス等の利用を調節したり、容態に応じて病院や施設などの選定をすることなどです。当院では、このような患者さんご家族の不安や悩みについて、これまでも情報提供・意思決定の見守り・課題解決・各種制度の紹介など、様々な形で関わって参りました。

2022年10月からは、新たに『脳卒中相談窓口』を開設し、当院で急性期治療や回復期リハビリテーションを行なった患者さんやご家族からのご相談に、脳卒中療養相談士をはじめとした多職種の職員で対応します。患者さんの『自分らしい生活』への扉を開くお手伝いができればと考えています。



高血圧について

脳神経内科 田坂沙季

血圧とは、心臓から全身に送り出された血液が血管の壁を押す時の圧力のことで、心臓が縮んだり広がったり（拍動）することで発生します。血圧を測ると〇〇/××のように2つの数字が出てきます。数字が大きい方の血圧は収縮期血圧とよばれ、心臓から血液が出ていくときの圧力で血管に最も圧力がかかるときの値です。数字が小さい方の血圧は拡張期血圧と言われ、心臓が拡張しているときに血管にかかる圧力の値です。どちらか片方だけ高い方もおられますが、どちらが高くても注意が必要です。

高血圧は、喫煙・糖尿病・脂質異常症と併せて動脈硬化の危険因子と言われており、特に脳の血管に対しては血圧の管理がとても重要です。動脈硬化が進むと脳卒中や心筋梗塞といった脳心血管病を発症する可能性が高くなります。

健診で血圧が高いことを指摘される方も多いですが、基準は病院での血圧が140/90mmHg以上もしくは家庭での血圧が135/85mmHgを超えている場合には高血圧と診断されます。家庭での血圧だけ高い方や病院での血圧だけが高い方どちらもおられますので、傾向を知るためにも家庭での血圧測定は大切な習慣です。また、高血圧でなくとも病院での血圧が130/80mmHg以上、家庭での血圧が125/75mmHg以上の方は高値血圧と言われます。高値血圧でも正常血圧の方と比較すると脳心血管病のリスクが高いと言われますので、血圧が高いと指摘された場合は早めの治療を行うことが大切です。

治療の目標は、何も病気がない方で75歳未満は130/80mmHg未満、75歳以上で140/90mmHg未満と言われます。合併する病気のある方は、病気によってより厳格な管理が必要な方と血圧を下げすぎないほうがよい方がおられますので、かかりつけ医と相談しながら調整することが必要です。

高血圧は薬だけではなく、減塩や体重管理、節酒だけで下がることもあります。血圧が高いと言われたら、生活習慣を少し見直してみてください。また「血圧の薬は一度飲み始めると一生飲み続けなければいけない」と思われている方も多いですが、血圧さえしっかり下がっていれば減量・中止は可能です。ただ、血圧が高い方の多くは飲んでいなければ下らない方も多いのも事実です。血圧に関しては薬を飲むことが大切というわけではなく、血圧が下がっていることが大切ですので、生活習慣を見直しながら家庭血圧を確認してみてください。また、高血圧の中にも血圧をあげる別の病気が隠れていることがありますので生活習慣を見直してもなかなか良くならない方はお近くの医療機関の受診をお勧めします。



オンライン公開講演会での講演内容のご紹介

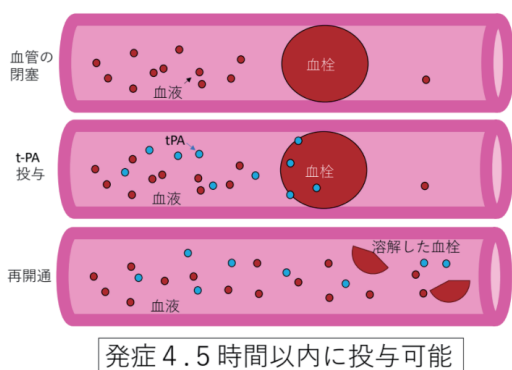
脳神経内科医長 志賀裕二

この度、「当院における脳卒中診療への取り組みについて」という演題で一般市民向けの講演をさせていただきましたので、ご報告させていただきます。

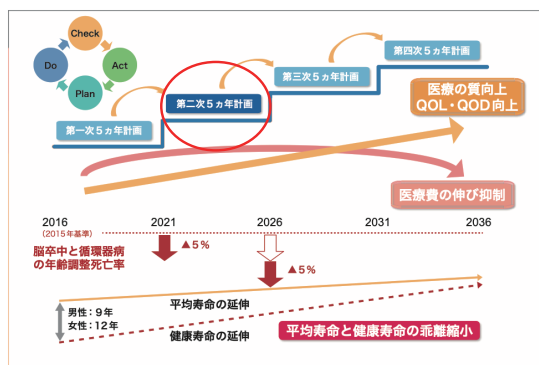
まず当院の特徴ですが、脳神経疾患の専門病院として地域の救急医療を担っております。特に急性期の脳卒中患者への治療を多く行っています。急性期の脳卒中に対する治療方法は10年前と比べて選択肢が増え、患者さんの予後も改善する割合が増えてきていますが、学会の主導により診療体制についても改革が行われています。具体的には、脳卒中と循環器病克服5カ年計画が日本脳卒中学会、日本循環器学会をはじめとする21学会により策定され、2016年度から2020年度にわたる5年間で遂行されました。脳卒中分野に関して、都市と地方で受けられる医療レベルに格差が生じてしまうことが以前より懸念されておりましたが、脳卒中の医療供給体制を全国に均てん化すると同時に、脳卒中医療のセンター化と機能分担のための階層化を図ることを基本構想として、まず一次脳卒中センター（Primary Stroke Center:PSC）が制度化されました。PSCは週7日24時間体制で脳梗塞急性期患者に血栓溶解療法(rt-PA静注療法)が可能であることなどの諸要件を満たした施設です。2次医療圏を基盤に整備を進めた結果、2020年度984施設が認定され、全国に均てん化されています。その結果、脳梗塞急性期患者が60分以内に血栓溶解療法を受けられることができる地域は島嶼（とうしょ）部などを除く99%に達しています。さらに脳梗塞治療の進歩とともに治療効果の有効性が示された機械的血栓回収療法が24時間可能なPSCの中核となる施設（PSC core)の整備が進められています。当院は既にPSCに認可されており、さらにPSC coreの認可に向けて準備を進めております。

このように医療体制の拡充を図り、急性期に適切な医療を提供する事は大切なことです。そして、脳卒中にならないように生活習慣病の管理や脳卒中の発症リスクの評価を行うことも同様に大切です。生活習慣病の早期発見、治療、そして脳ドックによるリスク検索（未破裂脳動脈瘤の有無や脳血管狭窄の有無の評価など）といったことは予防策として重要です。当院でも脳ドックを行なっておりますのでご活用ください。

超急性期治療 血栓溶解療法(t-PA静注療法)



脳卒中と循環器病克服5カ年計画が目指すもの



引用：脳卒中と循環器病克服第2次5カ年計画



新人挨拶



4月から看護師として勤務しています。やっと職場環境に慣れてきました。当院は脳神経専門病院であるため、専門性の高い看護を提供できるように、日々勉強していきます。また、1日でも早く戦力になれるように頑張ります。

看護部 藤原邑菜

4月より看護師として脳神経外科で勤務しています。日々先輩方からご指導を頂き多くの学びを得ながら楽しく働く事ができています。まだ未熟ではありますが患者さんへの感謝の気持ちを忘れず、今後も努力して参ります。宜しくお願い致します。

看護部 佐敷彩乃

4月から作業療法士として勤務しています。日々、新しい出会いと気づきに恵まれ、充実した毎日を過ごさせて頂いています。先輩方のご指導により、医療人としてだけでなく、一人の人間としても成長出来ていることを実感しています。患者さんが安心できる環境・雰囲気作りと、安全で効果的な治療の提供が出来るよう、これからも努めて参ります。よろしくお願い致します。

リハビリ部 矢野遼太郎

4月から医療ソーシャルワーカーとして勤務しております。未だ至らないことばかりで日々ご迷惑をおかけしておりますが、少しでも患者さん及びスタッフの皆さんのお力になりたいと思っておりますので、何卒ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

医療福祉相談部 能島千賀

5月より医局秘書として働かせていただくことになりました。名田萌(みょうでんもえ)と申します。前職では外来クラークとして働いておりました。初めて聞く医療用語に悪戦苦闘しておりますが、一日も早く貢献できるように一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

医局秘書 名田 萌

4月より診療情報管理士として勤務しています。慣れないことが多く先輩方に沢山ご指導頂きながら日々頑張っています。今は主に基本的な業務の流れを勉強していますが、仕事を通して専門的な知識を身につけていき、きちんと行えるようになり、患者さんの心に寄り添った医療を提供できるよう貢献していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

医事課 吉崎優衣

学 術 活 動 4月～9月

2022年4月2日～4月3日
第93回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会
3mm以下の微小脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の検討
脳神経外科 若林 光

2022年5月21日～5月22日
第71回日本医学検査学会
当院の労働安全衛生委員会における臨床検査技師としての係わり方
臨床検査部 平田明子

2022年6月25日
第23回新お茶の水セミナー
当院における微小脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の検討
脳神経外科 若林 光

2022年7月1日～7月31日
令和4年度認定認知症領域検査技師JSDP技師講座
神経心理学的検査の実践、対応に苦慮した事例紹介
臨床検査部主任 西野真佐美

論文発表を経験して
臨床検査部 福田雅子

2022年7月12日
(座長) 脳卒中診療についての医療連携Web
脳神経内科部長 今村栄次

2022年9月3日
第24回中国四国脳卒中研究会
当院において最終健康確認時刻から4時間半以上経過してt-PA投与した症例の治療成績
脳神経内科部長 今村栄次

2022年9月7日
(座長) 広島医科歯科連携Conference2022
脳神経内科部長 今村栄次

2022年9月23日～9月25日
第11回日本認知症予防学会学術集会
認定認知症領域検査技師制度 日本認知症予防学会併設JSDP技師講座
認知機能低下をきたす疾患～認定技師として知っておきたい病態と検査～
臨床検査部主任 西野真佐美

2022年9月28日～10月1日
日本脳神経外科学会 第81回学術総会
Lower grade gliomaにおける腫瘍関連遺伝子異常の検出
脳神経外科医長 蛸子裕輔

論著
2022年8月発行
Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. 31(8):106549,2022
Diffusion-Weighted Imaging Hyperintensities in acute and Subacute-Phase Intracerebral Hemorrhage
脳神経内科医長 志賀裕二



医療法人
翠清会

翠清会梶川病院

〒730-0053 広島市中区東千田町1丁目1-23 <http://www.suiseikai.jp>

TEL : 082-249-6411 FAX : 082-244-7190

編集委員：今村・山崎・松岡・福田・遠藤・木村・藤本・荒川